社会性を育む遊びって？

文：工藤

前回は数の理解について紹介し、人との関わりの中で体験することが様々な理解に繋がっていくことをお話ししました。今回は、人とのかかわりの中で育つ力の１つである社会性に焦点を当て、身近な遊びである、鬼ごっこやおままごとを例に紹介していきたいと思います。

☆鬼ごっこ

・相手を意識して追いかける、逃げる。

・なりきり遊びで、みんなで逃げて「（食べられなくて）良かったね」と共感する。

・ルールや決まりを知る。

・鬼役と逃げる役の役割（相手の立場）を理解する。

・ルールや決まりを守る。

→鬼ごっこは、「まてまて」など、相手を意識するところが土台になります。相手への関心ややり取りが高まって共感性が育ち、相手と自分の役割（立場）も理解できるようになります。徐々に鬼ごっこという遊びが展開され、約束事が分かり、トラブルも経験しながらルールの必要性にも気づいていきます。

☆おままごと

・子どもやお母さんの役を演じる。

・一緒に食べて「おいしいね」と共感する。

・「どうぞ」「いただきます」など相手とのやり取りが生まれる。

・社会的なルールやシーンごとの言葉遣いが身につく。

・子ども同士でイメージを共有しながら遊ぶ。

→おままごとは、真似ることで相手の気持ちを知ることができます。鬼ごっこと同様に、相手への関心が高まり、やり取りが生まれてくると、「お待たせしました」「いただきます」など場面に合った言葉が身についていきます。社会性が広がり、場面や役割に合わせた表現が身につくと、八百屋さんごっこ、ケーキ屋さんごっこ等、より難易度の高い遊びも楽しめるようになります。

・遊び方やルールの異なる遊びでも、相手を意識する・共感性があるという土台は同じです。普段の会話や遊びの中で、子どもとのやり取りを大切にしながら、遊びの幅を広げていきたいですね。

合わせよう！　大人のリズム　子どものリズム

文：八重柏

日々の生活の中で、お母さんの皆さん、お父さんの皆さん、ふと気を抜けるタイミングはどれぐらいありますか？「疲れたなぁ」「気付けばもう一日が終わった」「あれ、今日子どもと何を話したっけ？」などなど、あっという間に日々が過ぎていくと感じるほど、仕事や家事・育児に追われている方は多いのではないでしょうか。

子どもにイライラすることってありますよね？そういうときはどんな瞬間ですか？

行動に移るまでに時間がかかる、自分でやってほしいのにやってくれない、何度言っても同じことを繰り返すなど・・・、きっと身に覚えのある人が多いと思います。思い返してみると、大人のリズムと子どものリズムがかみ合っていないときに起きていませんか？

人のイライラの感情は、相手に対する期待値や願望が強いときほど起きます。「今やってほしい」「すぐ済ませたい」という大人の気持ちは当然です。でも、ときには子どものリズムを感じてみてください。それがイライラを少しでも小さくするポイントです！

イライラを小さくするポイント

①早め早めに伝えよう！
②子どものリズムを感じ取ろう！（〇時までやりたい、～からやりたいなど）
③時には子どもに任せる（委ねる）ことも大切！
④生活全体のリズムを見直してみよう！
⑤大人も息抜き、リフレッシュをしよう！自分の時間も大切に！